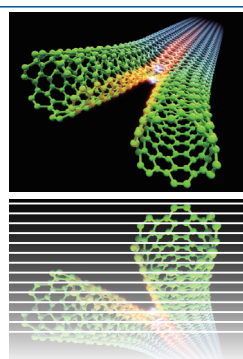


News Letter

87号 2025年3月



宇治キャンパス公開 2024、第 29 回エネルギー理工学研究所公開講演会	02
第 4 回エネルギー理工学研究所学生研究発表会	03
2024 年度 宇治キャンパス総合防災訓練の実施	04
第 15 回エネルギー理工学研究所国際シンポジウム	05
The 2025 Ajou-Kyoto-Zhejiang Joint Symposium on Energy Science	06
16th Eco-Energy and Materials Science and Engineering Symposium (EMSES 2025)	07
最新研究トピックス	08
院生のページ	09
附属エネルギー複合機構研究センター便り	10
新任教員紹介	11
在日フランス大使館 科学技術担当官の研究所訪問	12
タイ政府高官、タイ発電公社の研究所訪問	12
受 賞	12
研究所見学会、インターンシップ等	13
各種研究費の受け入れ	13
人事異動	14
外国からの来訪者	15
海外渡航	17
各種講演会の開催状況	17
研究所出版物一覧	18
研究所組織系統	19



<https://www.iae.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学エネルギー理工学研究所

Institute of Advanced Energy, Kyoto University

宇治キャンパス公開 2024、 第 29 回エネルギー理工学研究所公開講演会

宇治キャンパス公開 2024 実行委員会、講演企画委員長
長崎百伸

京都大学宇治キャンパス公開 2024 を、2024 年 10 月 19 日（土）、20 日（日）に開催しました。今回で 28 回目となるこの行事は、学外の皆様にキャンパス内の様子や大学で行っている活動の一端を知っていただき、さらには科学に興味を持っていたくきっかけになるようにとの趣旨で毎年開催しているもので、2 日間で延べ 1287 名が参加しました。

今年のテーマは「宇治にきらめく科学のカケラ あつめて開く知のトビラ」で、研究所の各研究室も工夫を凝らした展示や公開ラボで充実した二日間となりました。当研究所からは「光合成色素を取り出して光らせてみよう」、「レゴで学ぼう未来のエネルギー」、「人工宝石の作り方を学ぼう」、「熱カメラで見るエネルギーのヒミツ」、「フュージョンエネルギーとプラズマ実験」の 5 つを公開ラボとして出展しました。整理券を発行したものの早々に満席になってしまったり行列ができてたりと、どのラボも大変な人気で、多くの家族連れで賑わいました。

20 日に行われたエネルギー理工学研究所公開講演会では、野平俊之教授による「カーボンネガティブエミッションを目指して — CO₂ からダイヤモンドを作る —」、門信一郎准教授による「オーロラと人工太陽の「光」を探る」の講演が行われました。115 名の方にご参加いただき、積極的な質疑応答がなされました。参加者アンケートには、「大学の先生の話が聞ける貴重な体験ができてよかったです。」「カーボンでの化学式、久しぶりでとてもおもしろかったです。オーロラの形成過程が分かっておもしろかったです。」といった感想が多く寄せられ、有意義な会となりました。関係各位に心より御礼申し上げます。



宇治キャンパス公開



公開講演会での野平俊之教授



公開ラボ
「熱カメラで見るエネルギーのヒミツ」

第4回エネルギー理工学研究所学生研究発表会

エネルギー理工学研究所学生担当
教授 野平俊之

エネルギー理工学研究所では、若手育成の観点、および各研究室に所属する学生間の交流促進を目的に、2021年度よりエネルギー理工学研究所学生研究発表会を開催しています。発表者は修士2回生、および博士後期課程の学生とし、優秀なポスター発表に対して表彰を行っています。

第4回学生研究発表会は、2024年12月12日(木)に、おうばくプラザにて対面形式で開催されました。今回は22名の修士2回生と7名の博士後期課程学生の計29名が発表し、3名の発表に対してポスター賞が授与されました。なお、今回は、エネルギー理工学研究所国際シンポジウム期間中の開催だったため、博士後期課程学生の多くが国際シンポジウムでのポスターセッションで発表した関係で、例年より博士後期課程学生の発表が少ないという背景がありました。

学生研究発表会は、西原大志講師の司会進行により、片平正人所長の開会挨拶で幕を開けました。きはだホールでのポスタープレビューに続いて、ハイブリッドスペースにおいて、ポスター発表セッションが二部に分けて開催されました。

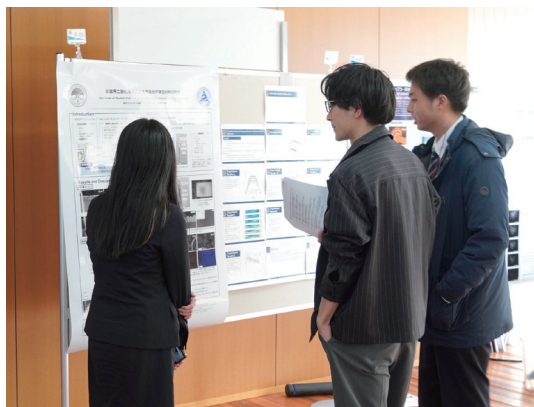
当研究所の研究分野は、エネルギーという共通のキーワードはあるものの、ナノテクノロジー、材料科学、生物化学、電気化学、無機化学、光科学、加速器、レーザー、核融合、原子力、電力システムや社会経済など、非常に多岐にわたっています。このことから、ポスターの審査基準には研究の位置づけや質疑応答のほか、「他分野の人にもわかりやすいか」の項目を設けています。審査員は研究所の教員が務め、各ポスターの前では活発な議論が交わされました。

また、京都大学エネルギー理工学研究所表彰学生賞応募者の2名の口頭発表も行われました。

その後、エネルギー理工学研究所優秀ポスター賞の受賞者が片平正人所長より発表されました。最後に松田一成副所長による閉会挨拶がありました。

さらにその後、ハイブリッドスペースにて、懇親会が行われました。ここでは、教員の寄付金を原資として、飲み物、ピザ、ドーナツなどが提供され、学生と教員、さらに、学生間や教員間でも大いに懇親が進みました。2025年度の学生研究発表会においても、活発な議論および懇親が行われることを期待します。

最後に、今回の学生研究発表会の開催において、準備や審査などにご尽力いただきました研究所の皆様へ厚く御礼申し上げます。



ポスター発表



エネ研表彰学生賞受賞者の講演



優秀ポスター賞授賞式の様子

2024 年度 宇治キャンパス総合防災訓練の実施

エネルギー理工学研究所 自衛消防地区副隊長
長崎百伸

2024 年度宇治キャンパス総合防災訓練が、2024 年 10 月 24 日（木）午後 3 時からの 1 時間ほどを利用し、宇治市東消防署の協力を得て実施されました。この訓練は、本学の危機管理基本計画に則り定められた総合防災訓練スケジュール概要（研究室・部局消防（地区）隊）に基づき実施されるもので、災害発生時の被害を最小限にとどめるための訓練とされています。

今年度は、エネルギー理工学研究所からは各研究室の参加は任意で、自衛消防地区隊長が被災状況集計（部局消防分隊集計用）を部局対策室に提出するところから訓練を行いました。今回は宇治構内災害対策本部、および、部局対策室を宇治キャンパス生協裏手に設置しました。今年度の訓練として、例年とは違う場所での迅速な構内災害対策本部や部局対策室設置場所の確認、および、設営・被災状況等の情報伝達に主眼が置かれました。その後、情報伝達訓練、消火栓等使用訓練、止血・骨折等の応急処置訓練や AED の使用方法の講習が実施されました。

消火器の使用訓練や応急処置、負傷者の運び方の講習、AED の使用方法についても指導があり、不明な点について積極的な質疑応答が行われました。

今回の実施訓練での宇治東消防署からの講評において、「京都大学は日本語だけでなく英語でのアナウンスがあり素晴らしい」とのお言葉がありました。また、年度初めではまだ日本語、英語が不得意な方もいらっしゃるのでコミュニケーションをしっかりとれるようにとのお言葉もありました。

本訓練が被害の拡大防止に役立つことを期待するとともに、所員や学生の皆様におかれましては「宇治キャンパス危機管理計画」にもう一度目を通され、災害に備えていただきますようお願い申し上げます。



構内災害対策本部の様子



消火器使用訓練



AED の使用訓練



宇治市東消防署による講評

第 15 回エネルギー理工学研究所国際シンポジウム

国際シンポジウム実行委員長 機能物性工学研究分野
教授 宮内雄平

第 15 回エネルギー理工学研究所国際シンポジウム（The 15th International Symposium of Advanced Energy Science）が、2024 年 12 月 10 日（火）～12 月 13 日（金）の四日間にわたり、共同利用・共同研究拠点との共催で開催されました。今回のシンポジウムでは、副題「Toward the Realization of Advanced and Carbon Negative Energy」を新たに設定し、共同利用・共同研究拠点をハブとしたゼロエミッションエネルギー研究ネットワークにおける研究活動のさらなる推進を目的として行われました。今回のシンポジウムは、附属カーボンネガティブ・エネルギー研究センター（ICaNS）との共催で、例年よりも規模を拡大して行われました。また、オーラルセッションは遠方の参加者等に配慮して YouTube でも同時配信しました。オーラルセッション参加者が 250 名、パラレルセミナー参加者が 60 名と、多くの研究者にご参加いただきました。

初日に基調講演（プレナリー講演）を設け、国際エネルギー機関（IEA）元事務局長の田中伸男先生をお迎えし、「Global Energy and Climate Crises: Winners and Losers」のタイトルのもと、世界の政治情勢を含む俯瞰的視点から、各国、そして我が国が、エネルギー環境課題にどのように対処して行くべきかに関して、本シンポジウムの趣旨に沿った大変貴重なご講演をいただきました。また、シンポジウムのオーラルセッションでは、海外 6 名、国内 8 名の招待講演者から世界でのトップレベル研究の最新成果をご講演いただき、活発な質疑応答が行われました。

初日と二日目には、シンポジウムポスターセッション（個人発表 +GCOE：50 件）が行われました。今年度より、若手育成の観点から、学生、または博士号取得後 8 年未満の若手研究者を対象とするポスターセッションが設けられました。多数の審査員による厳正な審査の上、様々な大学からの若手参加者発表から選ばれた特に優秀な発表に、シンポジウムポスター賞（6 件）が授与されました。また、初日の夕方からはゼロエミッションエネルギー研究拠点 共同利用・共同研究のポスターセッション（企画型：39 件、提案型：33 件、共同利用：4 件）が行われ、活発な議論や情報交換が交わされる盛況なセッションとなりました。

四日目にはパラレルセミナーとして、二会場で「Symposium on Exploring Carbon Negative Energy Science 2024」、「The 31st FEL and High-Power Radiation Workshop」がそれぞれオンラインハイブリッド形式で開催され、さらに専門的な議論が深められました。

以上により、ゼロエミッションエネルギー研究ネットワークのさらなる拡充と深化につながる有意義なシンポジウムを成功裏に終えることができました。準備に際しては、国際シンポジウム実行委員会、共同利用・共同研究推進室、広報・資料室、担当事務室をはじめ、多くの教職員と学生にご尽力・ご協力いただきました。改めて御礼申し上げます。



集合写真

The 2025 Ajou-Kyoto-Zhejiang Joint Symposium on Energy Science

エネルギー生成研究部門 量子放射エネルギー研究分野
教授 大垣英明

The 2025 Ajou-Kyoto-Zhejiang Joint Symposium on Energy Science が 2025 年 1 月 21 日に 韓国 Ajou 大学にて開催されました。同シンポジウムは韓国の Ajou 大学（エネルギーシステム研究科）、中国の浙江大学（エネルギー工学研究科）と浙江工業大学（Science and Education Integration College of Energy and Carbon Neutralization）と、京都大学（大学院エネルギー科学研究科、エネルギー理工学研究所）との大学間にて順番で開催する学生向けのシンポジウムで、今回の開催は第 9 回目となりました。

今回のシンポジウムは Ajou 大学 62 名、京都大学 15 名、浙江大学 13 名、浙江工業大学 12 名の合わせて 102 名が参加し、盛会となりました。

シンポジウム当日は、Ajou 大学大学院長の Ryu Ki-Yeol 教授の Opening Speech で幕を開けました。続いて、日本側から京都大学エネルギー理工学研究所の大垣英明教授、中国側から浙江工業大学の Gao Xiang 教授の Opening Speech があり、活発な議論を通して国際交流を深めるよう鼓舞されました。その後、口頭発表セッション、およびポスター発表セッションを行い、33 件の発表が行われました。大学院エネルギー科学研究科の学生からは、口頭発表 5 件、ポスター発表 2 件の発表がありました。シンポジウムの最後には、京都大学大学院エネルギー科学研究科の佐川尚教授、Ajou 大学エネルギーシステム研究科長の Jang-Hyeyoung 教授、および浙江大学エネルギー工学研究科の Yu Zitao 教授からの Closing Speech で幕を閉じました。

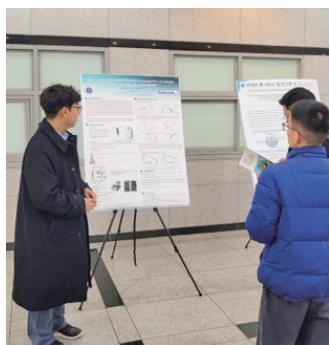
今回のシンポジウムを通じて、浙江大学、浙江工業大学、ならびに Ajou 大学との国際交流や中国浙江大学とのダブル・ディグリーのさらなる活発化を確認しました。また海外で開催された国際シンポジウムでの英語による研究発表とディスカッションは、学生たちの今後の研究活動に大きく役立つ貴重な経験となりました。なお、来年（2026 年）の The Ajou-Kyoto-Zhejiang Joint Symposium on Energy Science シンポジウムは、京都大学が主催することになっています。研究室学生やスタッフの積極的な参加をお願いして本稿を閉じたいと思います。



Ryu Ki-Yeol教授による Opening Speech



口頭発表の様子



ポスター発表の様子



集合写真

16th Eco-Energy and Materials Science and Engineering Symposium (EMSES 2025)

エネルギー生成研究部門 量子放射エネルギー研究分野
教授 大垣英明

京都大学、および Rajamangala University of Technology Thanyaburi (RMUTT) と香川高等専門学校
の共催にて、第 16 回エコエネルギーと材料に関する国際会議 (16th Eco-Energy and Materials Science
and Engineering Symposium (EMSES 2025)) を 2025 年 1 月 8 日 (水) より 10 日 (金) まで、京都
大学 国際科学イノベーション棟にて開催しました。本国際会議は第 1 回を RMUTT と本研究所の主催
でタイ王国にて 2001 年に開催し、それ以降日本とタイ王国の間でほぼ 1 年ごとに開催しています。今
回の会議は 139 名 (日本側 65 名、タイ側 74 名) の参加者を得て、エネルギー技術、EV、環境科学、
材料とナノテクノロジー、およびエネルギー社会科学に関する研究発表が、パラレルセッション、およ
びポスターセッションを含め、113 件行われました。

会議初日の 8 日のオープニングでは、片平正人 エネルギー理工学研究所所長、Sommai Pivsa-Art
RMUTT 学長、香川高等専門学校の長岡史郎先生から開会の挨拶の後、渡辺隆司 生存圏研究所教授より
「Lignocellulosic Biorefinery for Sustainable Humansphere」、King Mongkut's Institute of Technology
Ladkrabang の Wisanu Pecharapa 教授から「Natural-based Nanomaterials Synthesized by Ultrasonic-
assisted Process and Their Applications」という題目で、それぞれ基調講演が行われました。その後、
Materials Science and Nano Technology、Energy Technology、Electric Vehicle Technology、Energy
Society and Sustainability の各パラレルセッション、およびポスターセッションが行われました。8 日
夕方からは 120 名の参加者を得てバンケットが開かれました。9 日には特別セッション Nuclear Fusion
と Generation and Application of High-power Radiation Sources が行われました。10 日には
Environmental Science を含むパラレルセッションが行われました。最後にクロージングセッションが
行われ、12 名に対して Outstanding Presentation Award が、また Outstanding Poster Award が 5 名に
対して贈られました。10 日午後にはエネルギー理工学研究所の KU-FEL、および Heliotron J 施設の見
学会が行われました。

今回の会議では、特に学生・女性研究者の発表を奨励して行われ、65 名の学生と 40 名を超える女性
研究者が研究発表を行いました。また、10 件のエネルギー社会科学分野の発表が行われたことも特筆す
べきことです。これらのイベントを通じて、国・分野の異なる研究者ネットワークの拡大が行われました。

次回の EMSES 会議は、2027 年にタイ王国にて開催することになっています。



集合写真



Heliotron J 見学

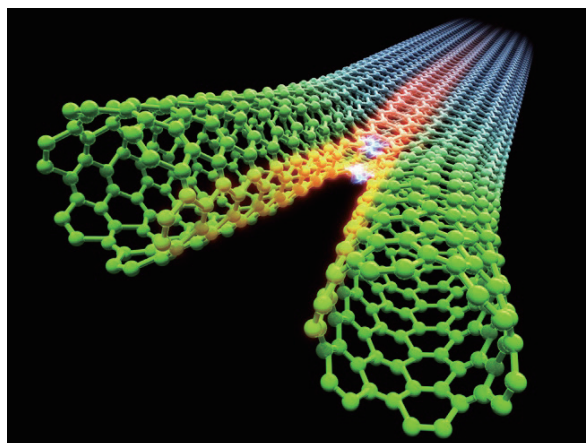
カーボンナノチューブの高効率なカイラル角保存融合現象の発見 —太いナノチューブの構造制御や後処理による物性改変に道—

エネルギー機能変換研究部門 機能物性工学研究分野
教授 宮内雄平・講師 西原大志

炭素の円筒状ナノ物質であるカーボンナノチューブ（CNT）は、その優れた物性により未来の機能材料として期待されており、さらに近年、CO₂の付加価値の高い炭素固定先という観点からも注目を集めています。その物性は円筒直径や炭素の並び方（CNTの構造）に強く依存するため、長年、特定の構造をねらった合成や、混合物から分離するための研究が盛んに行われてきました。しかしながら、直径1 nm程度以下の細いCNTでは構造制御の様々な方法が提案されている一方で、より太いCNTでは、同程度の直径で炭素の並ぶ向きの異なる構造の種類が非常に多く、構造選択的合成や分離が困難でした。

カイラル角保存カーボンナノチューブ融合現象の発見¹

我々は最近、あらかじめ構造を揃えた細いCNTの集合体に熱処理を行うという非常にシンプルな方法で、元のCNTの炭素の並ぶ方向（カイラル角）を保ったままCNT同士を融合し、直径2倍のCNTへと効率よく変換できることを発見しました。これまでに知られていた方法では、マクロスケールで構造選択的合成や分離が可能なのは、直径が1 nm程度の細いCNTに限られていました。直径約1.3 nmを超える比較的太いCNTでは、類似の直径と特性を持つ、幾何学的に実現可能なCNT構造の数が非常に多く、特定の構造だけを狙って作ったり、分離することが難しくなるためです。今回報告した原子



CNT融合のイメージ図

レベルで精密なCNT融合により、高純度の試料を作製可能な細いCNTを原料とした、太いCNTの構造選択的合成が可能になります。さらに、この反応を利用すれば、CNT集積体に後処理を施すことで部分的な融合反応を引き起こし、CNT間にsp²共有結合を形成することで、CNT集合体の電気伝導や熱伝導などの巨視的物性を、後処理により改変できるようになります。こうした技術は、マクロスケールでのCNT集積体の様々な応用にとって非常に有用なものになると期待されます。本成果は、2025年2月5日に国際学術誌「Nature Communications」にオンライン掲載されました。

参考文献

1. A. Takakura, T. Nishihara, K. Harano, O. Cretu, T. Tanaka, H. Kataura, and Y. Miyauchi, *Nat. Commun.* 16, 1093 (2025).

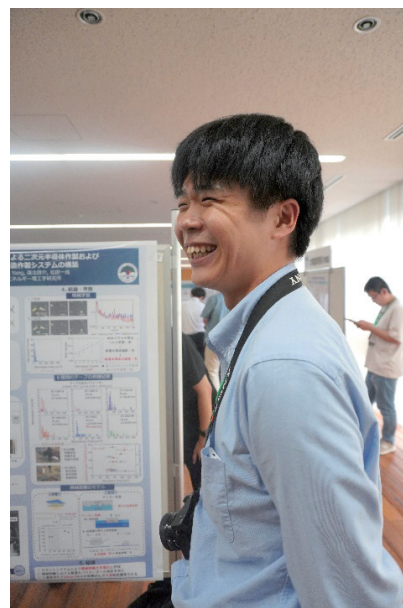
エネルギー機能変換研究部門 ナノ光科学研究分野
修士課程2回生 出原 渉

読んで字のごとく「雑多な感想」というタイトルでこの修士の2年間で感じたことを振り返る。

今思えば、入学式ではマスクを着けていた。研究室の雰囲気になじめるかどうか、不安だった。研究室の印象は、留学生が多く、良くも悪くも距離を感じるという程度だった。当時の修士2回生を中心に研究室では麻雀が流行っており、高校生以来の盲牌の練習を始めた。毎月2〜3回開かれる麻雀大会は会話がよく弾むため、とても楽しかった。世間の流れに身を任せ、入学してすぐに何となく就職活動を始めた。3社の夏インターンに参加したが、就職するメリットが自分の中であまりピンとこなかった。当時の私は、人生イケイケ時代で自分の力できっと何か新しいことを成し遂げられると思っていた。そのため、就職するよりも博士後期課程に進学(D進)することの方がとても魅力的に感じた。このことを先生に打ち明けたのは、忘年会だった。そして、この日から慌ただしくも充実した日々へと変わっていった。

D進することが決まり、春学会への参加(2学会)、奨学金申請の書類作成が同時に押し寄せた。すべての期限が3月に集中していて、途方に暮れた。ただ目の前の課題をこなすのに精一杯だった。学会の予稿を書き終え、先生に提出!とても安堵したと思いきや、真っ赤になって原稿が返ってきた。何が悔しいかというと、修正された文章はとても美しく、確実に自分が書いた文章よりも洗練されていたということだ。6月にも領域会議でのポスター発表、8月は博士後期課程の入学試験、9月は秋学会での発表と常に何かに追われている生活を送っていた。また、このころから同時進行で論文を投稿する準備も進めていた。忙しいというよりも充実感の方が高く、このようなスケジュールの中で自分の研究が進められていることが愉快だった。

D進すると決めてから1年になるころ、何となく先が見通せるようになり計画的に準備ができるようになった。最近は、予稿や発表資料を先生に提出しても褒められることがあり、成長を感じる。しかし、母親に卒業後はどうするのと聞かれ、人生の見通しは何も立っていないことに絶望した。今は、とりあえず卒業することを目標に日々楽しく研究活動に励んでいる。



領域会議でポスター発表を行う筆者

附属エネルギー複合機構研究センター便り

● 2024 年度センター共同研究成果報告会のご案内 ●

4月4日（金） 13時30分より

エネルギー理工学研究所北4号棟4階 大会議室（予定）

● 2025 年度センター共同研究・萌芽研究について ●

来年度も共同研究・萌芽研究を推進する予定です。応募要領は別途ご案内いたします。

● センター談話会 ●

センター共同研究・萌芽研究の課題代表者の各先生や招へい研究員の先生に、対面方式でお話しいただきました。談話会は所内連携研究、ならびに萌芽的研究の在り方を考える機会としていきたいと思います。

● 見学会 ●

例年以上にたくさんの方々が基幹装置の見学に来られました。特に中高校生の皆様には、進路のヒントを見つけたり、未来エネルギーへの関心を高めたりする機会としていただけたのであれば嬉しく思います。

お問い合わせ先

京都大学エネルギー理工学研究所 附属エネルギー複合機構研究センター
センター管理室 TEL：0774-38-3530



新任教員紹介

エネルギー利用過程研究部門 分子ナノ工学研究分野

准教授 小島崇寛



このたび、2025年1月1日付けで、分子ナノ工学研究分野の准教授に昇任いたしました。私はこれまで約12年間、本研究所に助教として勤務してまいりました。前職の東京工業大学資源化学研究所（現・東京科学大学化学生命科学研究所）では、有機合成化学を基盤とし、燃料電池用高分子電解質膜などのエネルギー変換材料の研究に取り組んでいました。本研究所に着任後は、新たに走査トンネル顕微鏡を用いた原子分解能測定技術を取得するとともに、分子を並べて繋げて揃えるボトムアップ型表面合成技術を活用し、さまざまなナノ炭素材料の開発に取り組んできました。最近では、グラフェンナノリボン（GNR）と呼ばれる新規ナノ炭素材料が、半導体プロセスの後工程におけるシリコンダイシング触媒として応用可能であることを明らかにし、省エネルギー加工技術であることから、産業界からも注目を集めています。さらに、強磁性を示すGNR、所謂、“炭素磁石”の開発にも成功し、軽量電子デバイスへの応用も期待されます。今後は、これらの知見を基に、高効率エネルギー利用を可能にする材料開発を進め、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えております。

エネルギー理工学研究所のさらなる発展に寄与できるよう、一層研究・教育活動に邁進してまいりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

エネルギー生成研究部門 先進エネルギー評価研究分野

招へい研究員 Geir Martin Haarberg
(ノルウェー科学技術大学（ノルウェー）教授)



I did my university studies in chemistry at the Norwegian Institute of Technology, Trondheim, Norway which is currently known as Norwegian University of Science and Technology (NTNU). I specialized in electrochemistry, and after my master studies I continued to do my PhD in the field of metal deposition by electrolysis in molten salts.

Norwegian has a long history of producing metals due to the available and inexpensive renewable electricity from hydropower. Norwegian scientists (Flood and Førlund) made pioneering work in molten salts, and technologies for molten salt electrolysis to produce aluminium and magnesium were developed and improved. However, the research community in Norway is rather small due to the low population. Therefore it has always been important to establish international collaboration.

I received my PhD degree in 1985, and I had started to attend international conferences. At the Gordon Conference on Molten Salts and Liquid Metals in USA and EuChem Conference on Molten Salts in Europe I met many scientists in the field of electrochemistry in molten salts. Among them I got to know some Japanese scientists (Yasuhiko Iwade, Isao Okada and Yasuhiko Ito), and I understood that this field was very important in Japan and that the level of research was very advanced. For some reason I never visited Japan until 2004 on the occasion of the first KIFEE Symposium in Kyoto. KIFEE stands for Kyoto International Forum for Environment and Energy and it was established by Prof. Yasuhiko Ito to enhance the collaboration between universities and research institutes in Japan and Norway. Since then this has developed to become a very important meeting place for scientists from the two countries. The 11th KIFEE Symposium was held in Tendo, Yamagata in March 2024 and it will continue to be organized every 18 months.

After I had visited Japan once I always wanted to come back, and since 2004 I have been to Japan every year. I have attended 17 conferences in Japan and spent 16 months visiting Doshisha University, Kyoto University and The University of Tokyo, where I was hosted by some of my best Japanese colleagues and friends (Prof. Yasuhiko Ito, Prof. Toshiyuki Nohira and Prof. Toru H. Okabe). I have also hosted four post docs from Japan (Tsuyoshi Murakami, Manabu Tokushige, Taiki Morishige and Yumi Katasho), and I have been involved with exchange of several master students from both countries. Four of my students from Norway have carried out their work for the masters thesis at The University of Tokyo, Doshisha University and Kyoto University. I have also had the pleasure of visiting 15 universities and research institutes in Japan. In my research field it is very interesting and stimulating to keep in touch with the huge amount of basic research that is going on at a high level in many universities and research institutes.

I have also learned to appreciate the Japanese way of living, the unique politeness and hospitality, and the rich tradition of the fantastic culture.

在日フランス大使館 科学技術担当官の研究所訪問

2024 年 11 月 14 日（木）午前、在日フランス大使館の Adeline Lassaux 科学技術担当官と Antoine Buss 科学技術担当副官が当研究所を訪問されました。

はじめに片平正人所長より研究所の概要が紹介され、その後、当研究所におけるフランスとの国際交流、および国際共同研究の状況についての説明と意見交換が行われました。

施設見学では、研究所の基幹装置である 800MHz NMR 装置と自由電子レーザー施設（KU-FEL）をご覧いただきました。



タイ政府高官、タイ発電公社の研究所訪問

2024 年 11 月 16 日（土）午前、タイから Prasert Sinsukprasert エネルギー省事務次官、Phairach Pornsomboonsiri 検事総長、Thepparat Theppitak タイ発電公社総裁を含む 21 名が当研究所を訪問されました。

はじめに片平正人所長より研究所の概要について説明を行いました。その後、長崎百伸教授と稲垣滋教授の案内により、研究所の基幹装置である Heliotron J、および Heliotron DR をご覧いただきました。



受賞

Outstanding Oral Presentation Award

Ju Yoon Hnin Bo（エネルギー生成研究部門 量子放射エネルギー研究分野 博士後期課程 3 回生）

「Investigation of Phonon-induced Magnetic Domain Dynamics as Neel Temperature Approaches in Nickel Oxide」

授与機関：16th Eco-Energy and Materials Science and Engineering Symposium（EMSES 2025）

第 9 回フォトニクスワークショップ 学生優秀ポスター賞

川上未央子（エネルギー機能変換研究部門 機能物性工学研究分野 博士後期課程 2 回生）

「カーボンナノチューブ薄膜を用いた近赤外完全吸収体の設計と製作」

授与機関：応用物理学会フォトニクス分科会

2024 年度第三回関西電気化学研究会

Hou Zhengyang（エネルギー利用過程研究部門 複合化学過程研究分野 博士後期課程 1 回生）

「太陽電池への応用を目的とした熔融 KF-KCl 中における結晶性 n-Si 膜の電析」

授与機関：電気化学会関西支部

Excellent Poster Certificate

Zhirui Liu（エネルギー機能変換研究部門 機能物性工学研究分野 修士課程 1 回生）

「Exciton binding energy in single-chirality carbon nanotube membranes probed by two-photon excitation spectroscopy」

授与機関：14th A3 Symposium of Emerging materials: Nanomaterials for Energy and Electronics

Symposium Poster Award

阪本知樹（エネルギー利用過程研究部門 エネルギー構造生命科学研究分野 研究員）

「Investigating the Impact of Molecular Crowding on the Base Pair Opening/Closing Dynamics of DNA Triplex Structures」

授与機関：The 15th International Symposium of Advanced Energy Science

Symposium Poster Award

茂木 渉（エネルギー利用過程研究部門 複合化学過程研究分野 博士後期課程 3 回生）

「Electrodeposition of crystalline Si using liquid metal cathodes in molten KF-KCl: Comparison of Zn and Ga」

授与機関：The 15th International Symposium of Advanced Energy Science

Symposium Poster Award

川上未央子（エネルギー機能変換研究部門 機能物性工学研究分野 博士後期課程 2 回生）

「Carbon Nanotube-based 4-layer All-dielectric Near-Infrared Perfect Absorber」

授与機関：The 15th International Symposium of Advanced Energy Science

Symposium Poster Award

劉 知鋭 (エネルギー機能変換研究部門 機能物性工学研究分野 博士後期課程 1 回生)

「Aggregation effect of single-structure carbon nanotubes on the exciton binding energies」

授与機関：The 15th International Symposium of Advanced Energy Science

研究所見学会、インターンシップ等

三重県立上野高等学校

2024 年 11 月 15 日 (金) 午後に約 40 名来所。

片平正人所長から研究所概要説明を受けたのち、研究所基幹装置の Heliotron J、KU-FEL、NMR 装置群と MUSTER を見学、その後、大学院生との懇談会を行いました。

愛知県立瑞陵高等学校 (文部科学省原子力・エネルギー教育支援事業における講演会)

2024 年 11 月 18 日 (月) 午後に約 40 名に出前授業。

宮内雄平教授が「研究者への道 ― とあるエネルギー・物質科学研究者の一事例 ― 」というタイトルで出前授業を行いました。講義では、高校から大学、大学院へと進む中で「何を考え、どのように判断し、なぜ研究者という道を選んだのか」という自身の経験を語りました。また、研究者という仕事の魅力について、最先端の研究内容を交えながら具体的に解説しました。

ラジャマンガラ工科大学、チェンマイ大学 (タイ)

2025 年 1 月 10 日 (金) 午後に 23 名来所。

大垣英明教授と長崎百伸教授の案内のもと、研究所の基幹装置である KU-FEL と Heliotron J 装置を見学されました。

松下政経塾

2025 年 1 月 20 日 (月) 午後に 3 名来所。

稲垣 滋教授の案内のもと、研究所の基幹装置である Heliotron J 装置を見学されました。その後、核融合に関する講義と質疑応答が行われました。

京都光華中学校

2025 年 1 月 23 日 (木) に 22 名来所。

片平正人所長から研究所概要説明を受けたのち、中田栄司准教授が「光合成色素を分取して光らせてみよう」と題した講義と実験の説明を行いました。その後、4 つのグループに分かれて、光合成色素を取り出す実験に取り組みました。

JST 次世代科学技術チャレンジプログラム 理科教室 (小中学生)

2025 年 1 月 26 日 (日) 午後に 47 名来所。

光華女子大学との共催で、JST 次世代科学技術チャレンジプログラム 理科教室「光合成色素を分取して光らせてみよう」を実施。中田栄司准教授の指導の下で実施されたこの理科教室は、指示に従ってただ手順を追うのではなく、“結果を予測し、実験を通じてその予測を検証し、得られた結果を考察する”というプロセスを重視しており、将来の研究活動に必要なスキルを体験できるように構成し、実施されました。

各種研究費の受け入れ

科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金)

研究種目	研 究 課 題	研究者
基盤研究 (B)	コヒーレントエッジ放射から紐解く自由電子レーザー相互作用 (分担金)	大 垣 英 明
基盤研究 (B)	核酸アプタマーによる細胞内認識の構造化学と脳関門透過戦略による神経変性疾患治療 (分担金)	片 平 正 人
基盤研究 (B)	めっき被覆と熱間等方加圧による核融合炉高熱負荷機器の修復再生 (分担金)	野 平 俊 之
基盤研究 (B)	超短パルス自由電子レーザーによる長波長赤外強光子場科学の開拓 (分担金)	全 炳 俊
基盤研究 (B)	究極的な高勾配加速を目指した自由電子レーザー逆過程加速に関する研究 (分担金)	全 炳 俊
基盤研究 (B)	コヒーレントエッジ放射から紐解く自由電子レーザー相互作用 (分担金)	全 炳 俊
基盤研究 (B)	高強度中性子環境における電気絶縁被覆機能材料の反跳原子による特性変化 (分担金)	八 木 重 郎
基盤研究 (B)	機能性被覆の劣化診断手法と修復技術の開発 (分担金)	八 木 重 郎
基盤研究 (C)	好冷菌セルラーゼ遺伝子群のクローニングおよび組換えタンパク質の生産 (分担金)	永 田 崇

共同研究

研究代表者	研究題目	申請者	研究期間
野 平 俊 之	非開示	非開示	2023.11. 1～ 2025.10.31

受託事業

研究代表者	研究題目	委託者	研究期間
大 垣 英 明	Human Capacity Building for Science, Technology, and Innovation Coordination between ASEAN and Japan towards Grand Challenges	ASEAN University Network (AUN)	2024.12. 9～ 2026.12. 8

奨学寄附金

研究代表者	研究題目	寄附者
大 垣 英 明	第 16 回エコエネルギーと材料に関する国際会議の実施に関する寄付	大垣英明（第 16 回エコエネルギーと材料に関する国際シンポジウム）
中 嶋 隆	水素社会の実現に向けた高性能光学式水素センサーの開発	（公財）市村清新技術財団
Arivazhagan Rajendran	効率的な生体分子検出とドラッグデリバリーのための構造的に多様な DNA 折り紙の合成	（公財）ヒロセ財団
山 置 佑 大	酸化酵素を用いたリグニン分解における膜分離バイオリアクターの活用	（公財）関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団

人事異動

発令年月日 または 受入期間	氏 名	異動 内容	所属・身分	旧（現）所属・職名等
2024.12.31	篠 北 啓 介	辞職	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 分子科学研究所 准教授	エネルギー機能変換研究部門 ナノ光科学研究分野 助教
2025. 1. 1	野 平 俊 之	再任	附属カーボンネガティブ・エネルギー研究センター 教授	附属カーボンネガティブ・エネルギー研究センター 教授
2025. 1. 1	小 島 崇 寛	昇任	エネルギー利用過程研究部門 分子ナノ工学研究分野 准教授	エネルギー利用過程研究部門 分子ナノ工学研究分野 助教
2025. 1. 1	Arivazhagan Rajendran	配置換	附属カーボンネガティブ・エネルギー研究センター 講師	附属エネルギー複合機構研究センター 自己組織化科学研究分野 講師
2025. 1. 1	山 本 貴 之	配置換	附属カーボンネガティブ・エネルギー研究センター 助教	エネルギー利用過程研究部門 複合化学過程研究分野 助教
2025. 1. 1	法 川 勇 太 郎	配置換	附属カーボンネガティブ・エネルギー研究センター 助教	エネルギー利用過程研究部門 複合化学過程研究分野 助教
2025. 2. 6～ 2025. 3.21	Geir Martin Haarberg	契約	エネルギー生成研究部門 先進エネルギー評価研究分野 招へい研究員	Norwegian University of Science and Technology（ノルウェー） 教授
2025. 2.28	近 藤 敬 子	辞職	附属カーボンネガティブ・エネルギー研究センター 准教授	附属カーボンネガティブ・エネルギー研究センター 特定准教授

発令年月日 または 受入期間	氏 名	異動 内容	所属・身分	旧（現）所属・職名等
2025. 3. 1	松 田 一 成	兼任	附属エネルギー複合機構研究センター 広帯域エネルギー理工学開拓研究分野 教授	エネルギー機能変換研究部門 ナノ光科学研究分野 教授
2025. 3. 1	近 藤 敬 子	採用	附属カーボンネガティブ・エネルギー研究センター 准教授	附属カーボンネガティブ・エネルギー研究センター 特定准教授
2025. 3. 1	Ju Yoon Hnin Bo	採用	エネルギー生成研究部門 量子放射エネルギー研究分野 助教	京都大学 エネルギー科学研究科 博士後期課程 3 年
2025. 3. 1	稲 垣 泰 一 郎	採用	エネルギー生成研究部門 プラズマエネルギー研究分野 助教	京都工芸繊維大学 工芸科学研究科 博士後期課程 2 年
2025. 3. 1	俣 野 眞 一 朗	採用	附属エネルギー複合機構研究センター 広帯域エネルギー理工学開拓研究分野 助教	慶應義塾大学 理工学研究科 博士後期課程 3 年

外国からの来訪者

来訪年月日	氏 名	所属機関名・職名・所属機関国
2024.11.14	Adeline Lassaux	在日フランス大使館・Attaché for Science and Technology・フランス
2024.11.14	Antoine Buss	在日フランス大使館・Deputy Attaché for Science & Technology, Project manager・フランス
2024.11.16	Sinsukprasert P r a s e r t	Ministry of Energy・Permanent Secretary・タイ
2024.11.16	Thangsuphanich N a n t i k a	Ministry of Energy・Director General, Department of Alternative Energy Development and Efficiency・タイ
2024.11.16	Churdchoo Tanchanok	Ministry of Energy・Secretary to the Permanent Secretary・タイ
2024.11.16	Siritprussamee P r a s i t	Office of the Energy Regulatory Commission・Deputy Secretary General・タイ
2024.11.16	Assawamaneekul P h a v i n a	Office of the National Economic and Social Development Council・Senior Advisor in Policy and Plan・タイ
2024.11.16	Limpitsatien Patcharodom	Office of the Council of State・Director of Technology and Energy Law・タイ
2024.11.16	Permbhusri Wachiraya	State Enterprise Policy Office・Deputy Director・タイ
2024.11.16	Satjapagasit N i c h a w a n	The Secretariat of the Cabinet・Plan and Policy Analyst・タイ
2024.11.16	Pornsomboonsiri P h a i r a c h	Office of the Attorney General・Attorney General・タイ
2024.11.16	Theppitak Thepparat	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Governor・タイ
2024.11.16	Eiamsai Thidade	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Deputy Governor, Power Plant Development and Renewable Energy・タイ
2024.11.16	Rapeepornpong P a t c h a r i n	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Deputy Governor, Finance and Accounting・タイ
2024.11.16	Sumranwanich T a w a t c h a i	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Deputy Governor, Strategy・タイ
2024.11.16	Wetatham Teerawut	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Deputy Governor, Transmission System Development・タイ
2024.11.16	Rattanachuen Warit	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Assistant Governor, Research, Innovation and Business Development・タイ

来訪年月日	氏 名	所属機関名・職名・所属機関国
2024.11.16	Charoenyos Surajit	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Assistant Governor, Legal Affairs and Corporate Governance・タイ
2024.11.16	Prakij Rangsinee	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Director, Business Development Division・タイ
2024.11.16	Ruangviset Jannipa	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Assistant Director, Business Development Division - 1・タイ
2024.11.16	Rongsriyam Nattapon	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Engineer Level 11- Office of Deputy Governor, Fuel・タイ
2024.11.16	Khaoluang Harid	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Chief, Portfolio Management Department・タイ
2024.11.16	Siriwarin Nawamon	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Head, Investment Analysis and Development Section 1・タイ
2024.11.16	Woranatipho Voraphan	Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT)・Head, Protocol Section・タイ
2024.11.16	S a m u t Tungsaleekased	Travel Technology Services Company Limited・Travel Facilitator・タイ
2024.11.16	Weekij Sachamanorom	Travel Technology Services Company Limited・Travel Facilitator・タイ
2024.11.16	Wanassanant Jaroenkhan	Travel Technology Services Company Limited・Travel Facilitator・タイ
2024.11.16	T h a n y a Yongtanavanich	Travel Technology Services Company Limited・Travel Facilitator・タイ
2024.12. 9～13	Rampai Kodsueb	Pibulsongkram Rajabhat University・Assistant Professor・タイ
2024.12.10～11	Ratchadawan Cheewangkoon	Chiang Mai University・Associate Professor, Assistant Dean for Research and Innovation・タイ
2024.12.10～11	Sukanya Haituk	Chiang Mai University・Researcher・タイ
2024.12.10～11	Thitima Wongwan	Chiang Mai University・Researcher・タイ
2024.12.10～11	Sirikanlaya Sittihan	Chiang Mai University・Student・タイ
2024.12.10～11	Tipprapa Promthep	Chiang Mai University・Student・タイ
2024.12.10～11	W i s s a r u t Yanapreechachan	Chiang Mai University・Officer・タイ
2024.12.10～11	Patita Konkawe	Chiang Mai University・Officer・タイ
2024.12.10～11	Kanitta Ta-Ai	Chiang Mai University・Assistant Researcher・タイ
2024.12.10～11	Sarat Monkhang	Silpakorn University・Assistant Professor, Vice Dean of Academic・タイ
2024.12.10～11	Peamsirisook Cheewangkoon	Varee Chiang Mai School・Student・タイ
2025. 1.10	Sommai Pivsa-Art	Rajamangala University of Technology Thanyaburi・President・タイ
2025. 1.10	Weraporn Pivsa-Art	Rajamangala University of Technology Thanyaburi・Lecturer・タイ
2025. 1.10	Somchet Tinnaphong	Rajamangala University of Technology Thanyaburi・University Council・タイ
2025. 1.10	P r a y o o t Akkaraekthalin	Rajamangala University of Technology Thanyaburi・University academic board・タイ
2025. 1.10	Alongklod Tanomtong	Rajamangala University of Technology Thanyaburi・University academic board・タイ
2025. 1.10	Sorapong Pavasupree	Rajamangala University of Technology Thanyaburi・Dean of faculty of engineering・タイ
2025. 1.10	Sutisa Juutarbutra	Rajamangala University of Technology Thanyaburi・Asst to president・タイ
2025. 1.10	Siriporn Augsopa	Rajamangala University of Technology Thanyaburi・Asst to president・タイ
2025. 1.10	Boonyang Plangkiang	Rajamangala University of Technology Thanyaburi・Asst to president・タイ
2025. 1.10	Sumonman Niangiang	Rajamangala University of Technology Thanyaburi・Vice President・タイ
2025. 1.10	Supasin Sukara	Chiang Mai University・Ph. D student・タイ
2025. 1.10	Kittipong Techakaew	Chiang Mai University・Ph. D student・タイ
2025. 1.10	Nuttawat Khammata	Chiang Mai University・Master student・タイ

来訪年月日	氏 名	所属機関名・職名・所属機関国
2025. 1.10	Kantaphon Damminsek	Chiang Mai University・Postdoctoral Researcher・タイ
2025. 1.10	Panat Nanthanasit	Chiang Mai University・Ph. D student・タイ
2025. 1.10	Jatuporn Suisut	Chiang Mai University・Lecturer・タイ
2025. 1.10	Sakhorn Rimjaem	Chiang Mai University・Lecturer・タイ
2025. 1.10	Noppadon Kangrang	Chiang Mai University・Researcher・タイ
2025. 1.10	Kanlayaporn Kongmali	Chiang Mai University・Ph. D student・タイ
2025. 1.10	Surawadee Khammee	Chiang Mai University・Master student・タイ
2025. 1.10	Monchai Jitvigate	Suranaree University of Technology・Lecturer・タイ
2025. 1.10	Pitchayapak kittisri	Tohoku Uni.・Ph. D student・タイ
2025. 1.10	Angali Kavar	Tohoku Uni.・Ph. D student・インド

海外渡航

氏 名	渡 航 目 的	目的国	渡航期間	備 考
松 田 一 成	14th A3 Symposium of Emerging Materials に出席、科研費研究課題に関する情報収集、情報交換	中華人民 共和国	2024.10.25～ 2024.10.29	科研費
宮 内 雄 平	14th A3 yposium of Emerging Materials に出席、科研費研究課題に掛るナノ物質に関する招待講演、情報収集	中華人民 共和国	2024.10.25～ 2024.10.29	科研費
金 史 良	AAPPS2024 に出席、受託研究費研究課題に関する発表、情報収集	マレーシア	2024.11. 3～ 2024.11. 8	受託研究費 運営費
大 垣 英 明	The 7th International School on Beam Dynamics and Technology (ISBA24) にて加速器技術に関する講演、情報収集	タイ	2024.11. 7～ 2024.11.11	運営費 チェンマイ大学
松 田 一 成	Bilateral Workshop on Low-dimensional Semiconductors に出席、受託研究費、科研費研究課題に関する研究発表、情報収集、情報交換	台湾	2024.12. 3～ 2024.12. 7	受託研究費 科研費
大 垣 英 明	JICA カンボジア炭素中立ロードマッププロジェクト、関係省庁らとの打合せ	カンボジア	2024.12. 4～ 2024.12. 8	受託研究費
大 垣 英 明	JASTIP WP1 ワークショップ、ラップアップシンポジウム、ASEAN Forum、SEE 2024 会議、WP2 ワークショップ参加	タイ	2024.12.15～ 2024.12.23	受託研究費
大 垣 英 明	2025 Ajou-Kyoto-Zhejiang joint symposium 出席、3 大学交流	大韓民国	2025. 1.20～ 2025. 1.22	アジョウ大学
Jordi Cravioto Caballero	2025 Ajou-Kyoto-Zhejiang joint symposium 出席、3 大学交流	大韓民国	2025. 1.20～ 2025. 1.22	エネ科

各種講演会の開催状況

エネルギー理工学研究所附属エネルギー複合機構研究センター 令和 6（2024）年度 第 5 回センター談話会
 日 時：2024 年 12 月 20 日（金） 15：00～17：00
 場 所：エネルギー理工学研究所 セミナー室 1（本館 W-503E）
 講演者 1：Arivazhagan Rajendran（エネルギー理工学研究所・附属エネルギー複合機構研究センター・講師）
 題 目：Stable DNA nanomaterials for practical applications
 講演者 2：山本貴之（エネルギー理工学研究所・エネルギー利用過程研究部門・助教）
 題 目：レアメタルフリー二次電池の開発を目指して

シンバイオ社会研究会第5回講演会 第7次エネルギー基本計画を考える（研究所共催）

日 時：2025 年 2 月 7 日（金） 14：30～17：00

場 所：エネルギー理工学研究所 本館会議室（本館 N-571E）、および Zoom

講演者 1：秋元圭吾（公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）システム研究グループ グループリーダー・主席研究員）

題 目：第7次エネルギー基本計画 ― その構想と課題 ―

講演者 2：寺井隆幸（一般財団法人エネルギー総合工学研究所理事長、東京大学名誉教授）

題 目：カーボンニュートラルのための原子力開発 ― 現状・課題・将来 ―

研究所出版物一覧

▲京都大学エネルギー理工学研究所年報（年度末発行）

▲京都大学エネルギー理工学研究所ニューズレター（年 3 回発行）

▲京都大学エネルギー理工学研究所リサーチレポート（不定期発行）

エネルギー生成研究部門

量子放射エネルギー

教 授 大垣英明
准 教 授 全 炳俊
助 教 JU Yoon Hnin Bo
特 定 助 教
Jordi Cravioto Caballero
事務補佐員 長家友美子

原子エネルギー

教 授 長崎百伸(兼)
准 教 授 八木重郎
事務補佐員 和田裕子

プラズマエネルギー

教 授 長崎百伸
准 教 授 小林進二
助 教 稲垣泰一郎
技術補佐員 中尾真弓

複合系プラズマ

教 授 稲垣 滋
准 教 授 門信一郎
助 教 金 史良
技術補佐員 中尾真弓

先進エネルギー評価
(客員研究分野)

招へい研究員
Geir Martin Haarberg

エネルギー機能変換研究部門

機能物性工学

教 授 宮内雄平
講 師 西原大志
事務補佐員 北川千賀子

レーザー科学

教 授 宮内雄平(兼)
准 教 授 中嶋 隆
特定研究員 Siniya Mondal

エネルギー基盤材料

教 授 宮内雄平(兼)
准 教 授 森下和功
助 教 数内聖皓
技術補佐員 石井令乃奈

ナノ光学

教 授 松田一成
教務補佐員 橋本香織

クリーンエネルギー変換
(客員研究分野)

エネルギー利用過程研究部門

複合化学過程

教 授 野平俊之(兼)
助 教 山本貴之(兼)
助 教 法川勇太郎(兼)
特定准教授 川口健次
事務補佐員 高取裕美

分子ナノ工学

教 授 坂口浩司
准 教 授 小島崇寛
助 教 信末俊平
技術補佐員 Pengcheng Qiu

生物機能化学

教 授 野平俊之(兼)
准 教 授 中田栄司
助 教 Peng Lin
技術補佐員 小西宏明
技術補佐員 楊 輝
教務補佐員 橋本香織

エネルギー構造生命科学

教 授 片平正人
准 教 授 永田 崇
特定准教授
Sadat Mohamed Rezk Khattab
助 教 山置佑大
支 援 職 員 村上直美
技術補佐員 永田佳代子

附属エネルギー複合機構研究センター

センター長 片平正人
技術室長補佐 東使 潔
技術係長 坂本欣三
技術専門職員 才村正幸
技 術 主 任 大村高正

技 術 職 員 設樂弘之
技術職員(シニアスタッフ)
高塚真理
技術職員(再) 芝野匡志

特 定 職 員 矢口啓二
支 援 職 員 吉田沙耶香
技術補佐員 中貝久美子
事務補佐員 渡邊しおり

事務補佐員 和田裕子
労務補佐員 杉村真里

自己組織化科学

教 授 片平正人(兼)

高温プラズマ機器学

教 授 長崎百伸(兼)

広帯域エネルギー
理工学開拓

教 授 松田一成(兼)
助 教 俣野眞一郎

環境微生物学
(寄附部門)

特 定 教 授 原富次郎
特定准教授 高塚由美子
技術補佐員 肥後佑衣
技術補佐員 宮坂一郎
技術補佐員 松葉凜果
技術補佐員 Man Ho Ng
技術補佐員 Yu Tung Lin

バイオマスプロダクトツリー
産学共同研究部門

教 授 片平正人(兼)

広報・資料室

特 定 職 員 滝本佳子

研究支援推進員 田村芽里

共同利用・共同研究推進室

研究支援推進員 中野友佳子

研究支援推進員 森山友紀恵

附属カーボンネガティブ・エネルギー研究センター

センター長 松田一成
教 授 野平俊之
准 教 授 近藤敬子
講 師 Arivazhagan Rajendran
助 教 山本貴之
助 教 法川勇太郎
特 定 助 教 Surachada Chuaychob

兼任教員

大垣英明(兼)
宮内雄平(兼)
松田一成(兼)
坂口浩司(兼)
片平正人(兼)
河本晴雄(兼・エネ科・教授)
佐川 尚(兼・エネ科・教授)
Benjamin Mclellan
(兼・エネ科・教授)

森 泰生(兼・工学・教授)
跡見晴幸(兼・工学・教授)
作花哲夫(兼・工学・教授)
石田直樹(兼・工学・教授)
全 炳俊(兼)
中嶋 隆(兼)
小島崇寛(兼)
中田栄司(兼)
永田 崇(兼)

奥村英之(兼・エネ科・准教授)
蜂谷 寛(兼・エネ科・准教授)
南 英治(兼・エネ科・准教授)
小川敬也(兼・エネ科・准教授)
佐藤喬章(兼・工学・准教授)
西 直哉(兼・工学・准教授)
深見一弘(兼・工学・准教授)
西原大志(兼)
信末俊平(兼)

Peng Lin(兼)
山置佑大(兼)
中尾章人(兼・工学・助教)
竹俣直道(兼・工学・助教)
横山悠子(兼・工学・助教)
奥村慎太郎(兼・工学・助教)

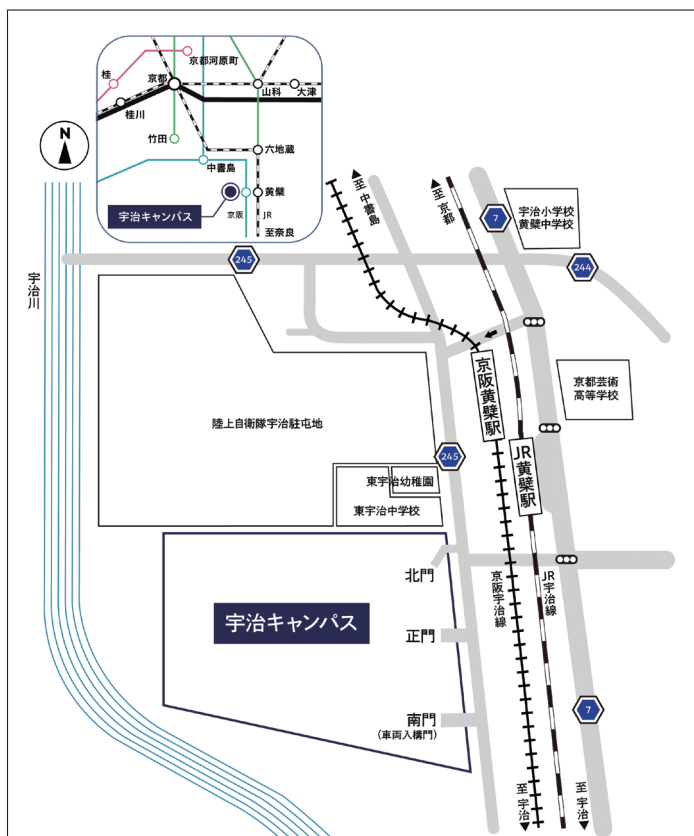
※エネ科 大学院エネルギー科学研究科

※工学 大学院工学研究科

宇治地区事務部

エネルギー理工学研究所担当事務室

結城美和(事務長) 垣田明彦(専門職員)
澤田尚美(事務補佐員) 松江絵里子(事務補佐員)



京都大学エネルギー理工学研究所 News Letter

2025年3月31日発行

編集兼発行人 京都大学エネルギー理工学研究所 所長 片平正人
 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄
TEL 0774-38-3400 FAX 0774-38-3411
<https://www.iae.kyoto-u.ac.jp/>